



梅雨の季節…雨は悪者ではありません

5月の雨がくれた贈り物

1ヵ月ほど前のことになりますが、5月19日(金)は、その以前からずっと雨の予報が出ていました。「今日しかない」と、前日の18日(木)午前、のび放題となっている職員室前の草刈りを始めました。授業の邪魔になってはいけないと、エンジン音を大きくしないようにゆっくりと刈っていました。2校時の終わる時間となりました。運動場で鉄棒の学習をしていた子たちが授業を終え、校舎へ入って行きます。何人もの子が「校長先生。ありがとうございます」と声をかけてくれます。

「ありがとう。」(ねぎらいの言葉をかけてくれてありがとう) そんな嬉しいやりとりがありました。無理に言っているのではなく、心から自然と発するその言葉は、汗をかきながらの労働以上に報われる気分になりました。次の日の雨は避けられないだろうと、翌日に予定していた5年生の田植の延期を決めた日でもありました。

そして19日、予報は大当たり、朝から雨が強く降っています。雨に濡れながら子どもたちが登校してきました。長靴を履いている子、レインコートを着ている子、どの子も体じゅうに雨を受けて登校しています。普段は饗庭地区のバス通学の集団が最後に信号を渡ります。バス通学の班とともに歩いてこられたのは、「おうみ通学路アドバイザー」の本田さん。(学級懇談会で動画に出演し、平井区の取組を紹介してくださいました)「深溝2班は、行きましたか?」「いやあ、まだやと思います」と言いながら東の方を見ると、はるか遠く、湖西線の線路の下あたりに傘の花が見えました。「あれと違いますか」と指差し、やがてははっきりと姿が見えてきました。バス通学の班からだいぶ遅れて、ようやくすべての子が信号を渡り終え、校舎に向かいました。私も雨に濡れたウィンドブレーカーを玄関先ではたき、校舎に入りました。上靴に履きかえた子どもたちが職員室前を通過して教室に向かいます。3年生の女の子に「びちょびちょになった?」「だいじょうぶ」そんな会話を交わしました。次にやってきたのは登校班長です。この4月から、速くは歩けない1年生の子たちをととても気遣って、何度も何度も後ろを振り返り、歩く姿を見せている班長です。私が見られるのは、信号の手前数十メートルの間ですが、その間だけでも何回も振り返って確認をする毎日です。「深溝からここまでいったい何百回振り返っているのか?」と思うほどです。「いつも歩くスピードを気にしてくれてありがとう。」私の言葉に軽く会釈を返して階段を上がって行きました。少し離れてやってきたのは6年生の男の子です。「めっちゃ濡れたんちゃう?」「大丈夫です。遅くなったのに待ってもらってありがとうございます。」「とんでもない。」彼の言葉にも感心させられました。本当にごく自然にこんな言葉が出てくるのです。わずか数分間、こんな会話を交わしながら幸せな時間を過ごすことができました。大雨がプレゼントをくれたのです。雨が降らなければこんな会話はできませんでしたし、彼らの優しさに触れることもありませんでした。大雨の日に長い距離を歩いて学校へ通っているからこそできた会話です。

強い雨の日には、送迎の自動車が増えます。この日彼らが送迎されていれば、こんなドラマチックな場面は生まれませんでした。雨に濡れることは、かわいそうなものかもしれません。でも、自然を受けとめ、たくましい心が育ちます。雨を感じた経験が、コミュニケーション力を身につけてくれます。同じ日、学校に長靴を持ってこられたお母さんもいらっしゃいました。以前にも、午後からの予期せぬ雨に、下校前に傘を届けてくださる方を見かけました。自動車に乗せることができるのに傘を届けて帰っていかれました。そんな姿を見ると、どちらが深い愛情なのかと考えさせられます。もちろん、傘を届けることすらできないご家庭がたくさんあることも事実です。3年前の運動会の日、たくさんの子が家族と下校するなかで、「あなたは班長でしょ。歩く子がいるんだから班長の役目を果たしなさい」というお母さんの発言があったことを聞きました。毅然としたお母さんの姿に頭が下がったのを思い出します。体調が悪いとかケガをしているなどの事情がある場合は別ですが、自分でさせることこそが愛情なのではないでしょうか。困難を経験してこそ成長する、たくましくなるというのも事実です。(登山をしても感じます)たくましい子に育てるためにわれわれ大人はどうすべきなのか、考えさせてくれるのも雨がくれたプレゼントと言えるでしょう。



5年登山(6/5)



3年登山(5/31)

変化の激しい 予測が難しい社会を たくましく生き抜く子に③

5,6年生の地域学校協働活動『みどりプロジェクト』で大切にしたいのは、「子どもが気づき、子どもが考え、子どもが動く、子どもが発信する」ということです。つつい大人が手を出してしまうところをぐっとこらえて、子どもに任せてみる、子どもの力を信じることです。思っている以上に力を持っているのに、発揮する場を大人が阻んでいることが多くあるのかもしれない。その点は学校教育も改善をしたいと思っています。それぞれの地域で活動を進めていますが、サポーターの方とともに自分たちの地域を歩き、「気づく」ことから始め、自分たちにできそうなことを「考え」て「行動に移す」学びを支えてくださっているところも見られます。

廃材等を活用してベンチを作る活動中にこんな話を地域の方からお聞きしました。「このベンチを作るのはなあ、〇〇ちゃんがひいおばあちゃんと散歩しててなあ、ひいおばあちゃんが歩くのに疲れはったんやわ。そんな時に腰かけて休むところがあたらええなあ、地域の方がゆっくりとこのええ景色を眺めながらゆっくりと過ごせるのもええなあ。というので作ることにしたんやわ。」と言いながら、どこに設置するのがいいのかわからないのか、絶景スポットの構想を練っておられました。

「地域の人々に愛されるものを」そんな思いを感じました。

別の地域からは、教室での相談中にこんな話を聞きました。「8月の夏祭りに小学生が出店をする。いくつかコーナーを自治会役員さんに提案したんだけど、予算の関係でコーナーを縮小することになった。そんななかゴミゼロの日に大人に混じって小学生も活動に参加し、そのがんばる姿が区長さんをはじめとする大人の心を動かし、できなくなったコーナーを7月の別の祭りのできるよう、夏祭りのリハーサルも兼ねた機会を与えてくださった」というものです。小学生の力を見せつけたエピソードにも感動しました。

もうすでに放課後や休日を利用しての活動を始めている地域もあります。安全面の観点からも地域のみなさまからのお声かけは大きな力になります。よろしく願いいたします。



PTA地区懇談会の開催にかかるおねがい

6月から7月初旬にかけて、各地区のPTA実行委員さんを中心に地区別懇談会を開催していただきます。その際に以下の2点についてお願いをいたします。

①安全マップの見直し・点検

交通安全面・防犯面で危険箇所について協議をしていただきます。その際、警察署や市役所への要望事項(横断歩道を設置してほしい等)がありましたら学校までご連絡ください。

②高学年の子どもたちに活躍の場を

たびたび紹介させていただいていますが、5,6年生が地域学校協働活動を計画しています。それぞれの地域でどんな活動を仕組もうとしているのか、保護者のみなさまにも知っていただきたいと考えています。夜分の懇談となる地域が多いかと思いますが、可能であれば、子どもたちが考える活動を紹介できるような機会を設けていただけないでしょうか。すでに昨年の懇談会でも時間を設けていただいた地域がありました。活動の周知だけでなく、発表すること自体が子どもたちの活躍の場となり、活動に勢いを与えるものになります。

7月 学校行事予定

3日 (月)	びわ湖の日活動	14日 (金)	個別懇談会
	登下校指導日	16日 (日)	家読の日
5日 (水)	希望の会の日	17日 (月)	海の日
	学年費口座振替 (5,6年)	18日 (火)	個別懇談会
12日 (水)	委員会活動	19日 (水)	個別懇談会 給食終了
13日 (木)	字別児童会	20日 (木)	1学期終業式

梅雨～台風の季節(豪雨等に備えて)

先日の豪雨は各地で大きな爪あとを残しました。なお、豪雨時等の休業の措置については以下のとおりとします。

- 午前7時において「特別警報」または「暴風を含む警報」発令の場合、該当地域の公立学校は臨時休業となります。
- 特例として、次の場合は、市の防災無線放送を通じて、臨時休業や始業時刻の変更を連絡することがあります。

①午前7時以降に上記警報発令が必至と判断される場合。

②午前7時以降に上記警報の解除が予想される場合。

③午前7時まで以上に上記警報が解除されても、通学路の状況から危険が予測される場合。 など

※「大雨警報」では、特別の場合を除いて、臨時休業とはなりません。

※なお、水害や豪雪等により、危険が予測される場合には無線放送等を通じて対応を連絡することがあります。

※児童の登校後に暴風警報が発令された場合等は、通学距離、通学路の状況等を勘案し、下校時刻の変更や児童引き渡し(保護者迎え)の措置をとる場合もあります。